

## 平成28年度 第2回小樽市人口対策会議 概要

- ・日 時 平成28年12月22日（木）午前10時00分～12時00分
- ・場 所 市役所本館2階 市長応接室
- ・出席者 鈴木座長、皆川委員、宮原委員、佐林委員、高橋委員、西山委員、若狭委員、新谷委員、山川委員、片岡委員、杉本委員、海野委員、上林委員
- ・事務局 総務部企画政策室長、企画政策室主幹、企画政策室主査

事務局 <開会宣言>

鈴木座長 <議事（1）新たに総合戦略への登載を検討する施策・事業のアイデアについて、事務局から説明を求める>

事務局 <資料1に基づき説明>

鈴木座長 <事務局からの説明に対し、意見や質問を求める>

鈴木座長 この中に、市長公約というものがいくつか含まれています。公約したものであるから実現しなければならないですね。

廃校を利用するという案が出ていますが、昨年、5校廃校となっており、衝撃的な数です。いくつか具体的な案が出ているのでしょうか。

事務局 座長からの話にもありましたとおり廃校が増えており、利活用がなかなか進んでいない中、財政状況を考えると新たな公共施設を建てるのが難しいこともあり、今ある施設を利活用しながらまちづくりを進めていきたいというのが一つの柱としてあります。まだ、庁内における議論がまとまっていないということもあり、資料には具体的に明記できておりませんが、例えば、北西部地区については旧塩谷中学校を地域の交流拠点として、また、自然学習については旧祝津小学校の利活用策を模索しております。

鈴木座長 塩谷中学校のように、廃校になった校舎は利用されていなくても維持が必要になります。そのときのコストはどのくらいですか。

事務局 現在は板を張って使用できない状況にあるため、維持コストはかかっていないと思われれます。

鈴木座長 あのような施設は、全く使用せず放っておくと数年後には使えなくなってしまうという危惧がありますね。

事務局 塩谷中学校については老朽化が激しいため、そのまま使うということにはならないと思われれますので、建て替えを含めた検討になろうかと考えています。

なお、平成28年3月までに空き校舎となったところは7校あり、うち4校については既に運用しているまたは方針が決まっています。残りの3校（祝津小、北手宮小、塩谷中）についてまだ検討中という段階です。

4校については、量徳小は小樽市立病院に、若竹小は売却、色内小は道営住宅の建築について検討、手宮西小は北山中と末広中の統合校としての活用となっています。

**山川委員** 廃校という負のイメージが付いてしまいます。旧祝津小学校は多様に利活用できるのではないかと思います、具体的に何か出ているのでしょうか。

**佐林委員** 既に商工会議所では小樽市に旧祝津小学校の活用について要望を提出しています。祝津地区には水族館があり、海がある、観光地としても大変魅力ある場所です。しかし、現在、小樽市には自然の村があるが、海の体験や宿泊ができる施設がありません。市長公約でも宿泊型体験施設について触れていますし、旧祝津小学校の施設は耐震化がされています。そのような状況を踏まえ、海の宿泊型体験施設としての整備について協議会を立ち上げて検討を進めたいと考えていますので、市も参画して取り組むよう要望しているところであります。

**山川委員** 観光という観点から、「小樽に行ったら祝津に行こう」というようなフレーズで売り込むという方法もあると思っています。水族館があつて、鯨漁にまつわる歴史もあります。旧祝津小学校は色々な意味で活かせると考えています。観光と絡めた視点でも検討してみてもどうでしょうか。

**佐林委員** これについては、冒頭の説明で戦略期間である平成31年度までに実現可能なものについての検討ということでしたが、市長の公約でもありますし、できることについては、どんどん具体化して取り組んでいかなければならないのではないのでしょうか。

**鈴木座長** この案については市側も了承しているものですか。

**事務局** 利活用するという方向性については決まっていますが、廃校の利活用については庁内に設置している学校再編に伴う跡利用検討委員会で協議することになり、旧祝津小学校を宿泊型体験施設とするということの合意はまだ得られていません。今後、議論を深めて行くこととなりますし、佐林委員からありましたように、できることから取り組んでいかなければならないと考えております。

**片岡委員** 町内会関係という観点からです。旧祝津小学校は第一避難場所に指定されていますが、廃校になってから周辺は草がぼうぼう生えてしまっています。活用する方針が示されれば、町内会としても協力するという声があります。早くに具体化することを要望します。

**鈴木座長** 提案されれば、すぐにでも具体的に進んでいきそうな案件ではないかと感じます。検討委員会での協議を早くに進めるよう願います。

**鈴木座長** 他にも公約に係る部分で、重点戦略の周産期医療体制の維持があります。現状はどうなっていますか。

**事務局** 協会病院において助産師外来を開始したところです。医師確保については引き続き、北後志周産期医療協議会を通して働きかけをしております。

**鈴木座長** 小樽市立病院が新築されましたが、産科を設置する計画はもともとなかったのでしょうか。

**事務局** 協会病院が既に地域周産期母子医療センターに指定されていたということもあり、(小樽病院も分娩を休止していたため)設置しないこととなりました。まずは、協会病院に対する支援を進めていきたいと考えています。

**鈴木座長** 新聞で見ましたが、遠軽町では首都圏で産婦人科医の募集を大々的に電車の中吊

りで周知したり、週刊誌に広告を掲載したりという取組をしているようです。どこの町も大変な状況でありますし、小樽市にとっても重要な課題ですね。

**鈴木座長** 次に、地域の教育力について、コミュニティスクールの開設とありますが、具体的なエリアがあるものですか。

**事務局** まだ、開設に向けた検討という段階であり、具体的な地区というのはこれからになります。

**高橋委員** 各地で子どもの格差が拡大しています。食事と教育の観点から、他の自治体では「子ども食堂」を設けているところもあります、小樽市ではどうですか。

**事務局** 小樽市サポートセンター「たるさぼ」で開設について研究しているほか、小樽商科大学の学生も取組を進めていると聞いております。今後、市として事業化が必要なものがあれば取り組んでいく考えです。

**山川委員** 小樽市内の出生数は年間どのくらいですか。

**事務局** 年間600人弱です。

**山川委員** 100歳を迎えた市民には市からお祝いがあります。（※<sup>注</sup>現在は市からの祝金等はなく、国からの記念品を伝達しているのみ。）  
子どもが産まれたときに、お祝いの品のようなものはないのでしょうか。

**鈴木座長** 有名なものであれば東神楽町などの「君の椅子」がありますね。

**山川委員** 昨日、小樽わくわく共育ネットワークの集まりがあって行ってきました。8組の親子がいましたが、このようなイベントをどこで知るか聞いたところ、市の広報ということでした。

出産時に小樽市からお祝いの品を贈るのにあわせて、子育て中に役立つ情報を提供すると良いと思います。お祝いの品は小樽らしくガラス製品などどうでしょうか。

赤ちゃんが生まれるということは、小樽市民にとっても喜びです。ちょっとした心遣いを贈ることで、少しでも「小樽で出産してよかった。」という気持ちになるのではないのでしょうか。

子育て中の母親同士が情報交換したり、親子で参加したりできるイベントについて、知らない人がまだ多いと感じます。道しるべのようなものを配ってみてはどうでしょうか。

**佐林委員** ライオンズクラブでは出産の記念にオルゴールをプレゼントしています。全員ではなく、クラブに来た方に限りませんが。継続するのはお金もかかることなので、なかなか難しいのが現状です。

**新谷委員** 小樽市でも「すくすくひよこくらぶ」という出産後間もない親子を対象とした事業を行っています。定員が少ないために、参加できない人も多いです。広報で周知されていますが、申し込みをしても定員オーバーで参加できなかったという声を良く聞きます。

毎回、申し込みをしても参加できないとなると諦めてしまい、関係性を持ってないままになってしまいます。

子育ての会議でも声は出すようにしています。それこそ、年間600人弱しかいない大切な赤ちゃんなので、もっと広く参加できるようにして欲しいです。

- 鈴木座長 「すくすくひよこくらぶ」というのはどのような内容ですか。
- 新谷委員 生まれて間もない子どもとその親と一緒に運動したり、同時期に出産した母親同士のつながりを作ったりする場所としても機能しているものです。
- 鈴木座長 定員を少数に限定している理由は为什么呢。
- 新谷委員 主催者の都合だと思います。安全確保などの問題もあるのでは。
- 片岡委員 自分が普段いる事務所が入っている総合福祉センターの2階で実施しているのを見ることがありますが、会場がそれほど広くないです。スペースの確保が問題では。
- 山川委員 昨日のイベントでも主催者2名にボランティアが2名という運営体制でした。やはり参加者も8組と少なかったです。  
申し込みをして参加できていない人がいるということは、ニーズがあるのですから、そのフォローが大切だと思います。
- 鈴木座長 募集しても人が集まらないなら仕方がないですが、応募は多く、ニーズはあるのですから改善して欲しいものですね。
- 新谷委員 あと、保育士の確保が、早急に取り組まなければならない問題だと思います。  
幼稚園と保育所が一体となった認定こども園という形ができ、使いやすくなってはいますが、保育士の配置ができていない現状があり、希望しても入園できない事例もあるようです。  
札幌の専門学校などには首都圏から保育士確保のために、「寮を完備」「都会での暮らし」などで呼び込みに来ているようで、実際に卒業後、上京する人が多いと聞きます。  
女性が輝きながら働ける環境を整えるためにも、そして、保育士自身も子育て時期には子どもを預けなければ働けないということもありますので、早急に取り組んで欲しいです。
- 佐林委員 U I ターンと関連付けて考えてみると、U I ターンするときに重要なのは住むところと働くところです。  
働く場の創出ということで、移住相談などにワンストップ窓口で対応する事業も検討しているようですが、住むところ、働くところをしっかりとフォローアップすることに取り組めば、今出ている話にも効果があるのではないのでしょうか。
- 片岡委員 私の娘が札幌で保育士を臨時職員としてやっています。同僚に小樽から通勤している人がいますが、小樽市の採用試験は面接日や試験日の設定が広報などでの周知から日がないため、受けたくても受けられないという現状があるようです。募集するとき、受験者の立場に立って考えて欲しいという声があります。
- 事務局 ただ今、委員からいただいた意見については事業を担当している部署に伝え、可能であれば改善するようにいたします。
- 鈴木座長 参加者の定員を増やすというのは1つの部署だけでは難しいと思いますが、連携して取り組めば実現できるのではないかと思います。早急に取り組んで欲しいです。
- 宮原委員 小樽市では待機児童はどのくらいいますか。  
少子化が進んでいるとはいえ、相当数いるのではないのでしょうか。

事務局 国の基準で言うところの待機児童はおりません。しかし、希望の保育所に入れなかったために待機されている方は一定程度いるのが現状であります。

皆川委員 現行の総合戦略で設定しているK P Iに、今回提案のあった施策は含まれていますか。

事務局 現在は含まれていません。

皆川委員 重点戦略①は頭だしされていますが、②、③については既に整理されているという認識でよいでしょうか。

事務局 資料3の説明にも関わってきますが、重点戦略②、③については既に追加する事業などが具体的に決まっていますので、記載しておりません。今回の資料1についてはあくまでも新たなアイデアという整理です。

佐林委員 今日の新聞で第2次小樽市観光基本計画策定についての記事を見ました。観光の分野は総合戦略において非常に重要ですが、反映の仕方についてどのように考えていますか。

事務局 重点戦略③の部分で取り込んで整理していく考えでいます。観光については、国の地方創生加速化交付金事業として、観光推進組織であるDMOを整備し着地型観光を推進するための取組を行っているところであります。  
総合戦略の改訂で明記することになりますので、観光基本計画の方向性についても反映できるのではないかと考えております。

鈴木座長 新たな観光拠点というのは、既存のものとは別に創出するというのでしょうか。

事務局 観光推進組織であるDMOについて申し上げますと、これまでのように市からの補助金で運営し続けるということではなく、自立自走するため、稼ぐ力を持つという意味で新たな観光拠点において物産などを行い、収益を上げることも可能性の1つと考えています。

山川委員 観光についてとても期待しています。しかし、観光客の目線ではなく役所目線で上からしか見ていないように感じます。例えば、旧手宮線の遊歩道が整備されましたが、エピソードの紹介などが足りないと感じます。ただ歩くのに便利になっただけではなく、そこを通り、「こんな街なら住みたい」と思わせるような見せ方が必要だと思えます。せっかく観光資源はたくさんあるのに、それぞれの連携がとられておらず、紹介の仕方が残念な状態です。

鈴木座長 観光案内板の充実が必要と思いますが、最近はI T化が進んでいて、案内板に二次元バーコードを付けてスマートフォン等で読み込むと説明文が出てくるものを設置しているところもありますね。さらに電子スタンプラリーの機能を持たせるということも可能です。これからは、そのような形態も考えていかなければならないでしょう。  
小樽の観光散策ルートは既に作られていますが、ある一面（文学など）に特化したものなど、いくつかのパターンを用意するといいかもかもしれませんね。

事務局 ストーリー性や見せ方が重要ということだと認識しています。現在、国の地方創生加速化交付金の事業として進めている、「明日の小樽を支える観光イノベーション事業」において歴史的資源の観光資源化やストーリー作りに取り組んでいます。また、総合戦略にも記載し、登録を目指している日本遺産においてもストーリーが重要視されておりますので、取組を進めていく考えです。

**佐林委員** 観光の部分は「にぎわい再生プロジェクト」ということで、観光を軸とした地場産業の振興により、にぎわいを取り戻し、雇用創出を実現する。となっています。

観光は軸でありますし、産業振興の部分では地場産業をしっかりと元気にさせるということが必要です。そのためには、港の活用や、新幹線延伸や高規格道路の整備といった社会資本の状況も考えながら観光の拠点などを考えなければなりません。観光というのは、色々な分野のことをめぐるせながら考えなければならないと思います。観光基本計画の策定が進んでいるとのことですので、その点を踏まえて検討して欲しいです。

**鈴木座長** <議事（１）について、他に質問や意見を求めたが特にないため、次に進める>  
<議事（２）小樽市みらい創造プロジェクトチーム事業案について、事務局から説明を求める>

**事務局** <資料２に基づき説明>

**鈴木座長** <事務局からの説明に対し、意見や質問を求める>

**杉本委員** Dチームの事業案についてですが、先程も旧手宮線散策路の話が出ていましたが、11月に完成・開通しました。冬の期間も除雪をして歩けるようにしたらどうでしょう。外国人観光客は雪路を歩いてみたいという興味があるようです。せっかく整備したのですから、すぐできることとして取り組んでみてはどうでしょうか。今あるものを活かすとよいと思います。

あと、広域的な視点ということで、ニセコでホテル等を経営している人に聞きますと、ニセコに来ている観光客は最近では周遊を望む声が多いということです。ニセコ以外を幅広く周遊できるようなプランが喜ばれるのではないのでしょうか。すぐに結果には結びつかないかもしれませんが、このようなニーズがあるということ念頭に置いて取り組むと良いと思います。

**鈴木座長** 小樽観光の国際化が求められますね。ニセコではほとんど英語で過ごせるような環境になっています。そのような環境を小樽でも整えることができるかどうか、外国人観光客を受け入れる上での課題となると思います。

今日の新聞で市内の無料Wi-Fi環境についての記事がありましたが、無料Wi-Fiは海外では常識になっていますので、導入にはお金がかかるでしょうが、広く整備して欲しいですね。

**鈴木座長** この小樽市みらい創造プロジェクトチームは庁内の22名で構成ということですが、人口対策庁内検討会議との関係性は。

**事務局** 人口対策庁内検討会議はこの人口対策会議と相対する関係で、互いの議論をフィードバックするものです。人口対策庁内検討会議は部長職以上の会議のため、必要に応じて関係課長会議を開催しています。

それとは別に、今年度から新たに立ち上げました若手職員を中心としたプロジェクトチームを市の重要課題を審議する、小樽市企画政策会議の補助組織として位置付けております。

**鈴木座長** このプロジェクトチームが検討している内容は、本人口対策会議とオーバーラップしています。検討内容についてどのように扱っていますか。

**事務局** 資料２にある事業案については、人口対策庁内検討会議にも提案しています。財源

などのハードルもあり、すぐに実行するという段階ではありませんが、具体的な事業案として今後も提案を続けます。配布の資料とは別になりますが、事業費の積算などもしておりますので、財源的な手当てができ、事業部がやるとなればすぐ実施できるものと考えています。

**皆川委員** このプロジェクトチームで事業内容をブラッシュアップし、庁内検討会議に提案し、各種会議に諮ったうえで実現できそうとなったら総合戦略に登載するという流れでしょうか。

**事務局** 今はアイデアの段階ですが、事業化して初めて総合戦略に登載されるものと考えております。

もともと、地方創生の推進という目的の下に設置したプロジェクトチームですので、総合戦略の趣旨にも合致しているものと理解しています。

**佐林委員** 昨年のこの会議でも発言しましたが、地場産業の振興ということ。

人口が減少している現状は皆さん周知の事実でしょうが、市内の事業所が年で200も減っています。多い分野では20年間で4割も減少しており、それによりそこで働く人も減っています。これは税収にも影響するので、重く受け止めなければならず、この部分があまり検討されていないということに危機感を感じます。

**鈴木座長** 人口は4割までは減ってないですね。

**佐林委員** 支店や出張所がなくなったことにより、その従業員がいなくなり、人口の減少につながるという状況にはなっています。

新規創業の支援や事業承継の相談に応じるなど、地場産業に関わっている方たちのサポートが重要になるのではないかと考えています。

**鈴木座長** 商工会議所においても議論していると思いますが、連携して取り組んで欲しいですね。

**事務局** 事業部に確認したところ、商工会議所などと会議で検討を進めていくということですので、議論の経過を見守っていく必要があると考えます。

**高橋委員** 人口対策には企業の振興、雇用の確保が必要と考えています。

中小企業家同友会と商工会議所と中小企業振興基本条例の制定を要望していますが、まだ出発点にも到達していません。議会が停滞しているという現状もあると思いますが、いつ提案されるのかと待っています。

制定されると中小企業が元気になり、雇用も生まれてきます。そうすると人口減少問題にも効果があります。この流れで人口対策を支えていけると考えていますので、担当している課に推し進めるよう進言してください。

**事務局** 昨年来からのご提案であり、担当課でも検討に向けて準備をしているところです。この人口対策会議の議事録は関係課に提供しておりますので、いただいた意見等につきましては担当部署に伝えます。

**佐林委員** 他に、Eチームの事業案についてですが、小樽市スポーツ推進審議会の答申で子どもの体力と高齢者の健康増進について触れていたかと思います。対象とする年齢が疑問です。65歳で区切るのではなく、それ以上の方が対象となるのではないのでしょうか。

**鈴木座長** この、おたる健幸ウォークポイント事業はもう始まっているのですか。

- 事務局** まだ、あくまでもアイデアの段階です。  
対象年齢に関する部分については、事業化にあたっての検討事項といたします。
- 佐林委員** 高齢者の健康づくりと体力維持ということであれば、むしろ65歳から80歳くらいが対象となると思います。
- 山川委員** 今年の潮まつりでは、第50回を記念して市内全小学校の児童がねりこみに参加して、とてもよい取組だったと思います。  
Cチームの事業案についてですが、郷土愛あふれる子どもを育てるとあります。小樽の子どもであれば天狗山に登り、潮まつりに参加し、スキーができて泳げるということを期待しますが、それに加えて、海から見る小樽を知って欲しいと思います。遊覧船などに乗って体験できますが、親子で体験なら大人が安くなるなどの制度があればよいと考えます。子どもの時に親子で体験したことは、大人になっても記憶に残ります。それにより、ふるさとに帰りたいという気持ちにつながるのではないのでしょうか。教育の現場に伝えて欲しいです。
- 新谷委員** Bチームの事業案についてですが、プレーパークというのは何かを建てるものなのでしょうか。
- 事務局** プレーパークというのは、指導者が常駐していて、その場にあるものを活用して遊ぶ、自由に遊ぶ、その方法を一緒に考え生み出すというものです。
- 新谷委員** 場所は自然の村や総合体育館の中のように、その場に行かなければできないというものですか。
- 事務局** そのような場所ではなく、市内に数カ所、プレーパークとして遊べる場所を作りたいという考えのようです。
- 鈴木座長** 北海道科学大学と連携してジオラマを作るというのは、大学に話を持ちかけているのでしょうか。
- 事務局** まだ具体的に提案はしていませんが、チームに大学OBがいて出された案でありますので、実施が決まればスムーズに進むのではないかと考えています。
- 山川委員** もう1つ心配なことがあり、不登校の子どもが市内に7~80名いると聞きます。これは日本の社会傾向からいって減少することはないと思われまます。  
子どもがいる場所・環境を整えたら、市外から子どもを連れて転入するというのもあり得ると思います。人を呼び込めるのではないのでしょうか。  
少子化が進む中、子どもは貴重であり、その将来が心配です。不登校対策のビジョンはどうなっていますか。
- 上林委員** 難しいのは、運営主体がどこになるかということです。  
今は教育委員会に適応指導教室があり、2人の先生が対応していますが、そこに来ることのできる子どもはまだ復帰する可能性が高いといえます。来ることのできない子どもがたくさんいます。学校での集団生活に溶け込むことができない子どもが多くいます。  
教育委員会で対応するのか、市が行うのかという課題があります。  
札幌市では民間が行っていて、教員OBが個人的に自宅を開放して受入をしていたりします。本州では企業がフリースクールという形で運営しています。旧祝津小学校の跡地を利用してフリースクールをという考えもありますが、民間が経営するとなる



と採算が取れるよう、利用料金が高くなってしまいます。民間での経営となれば一月あたり5万円くらいになるかと思っておりますので、小樽では難しいかなと思っています。

精神科の開業医が医院の中にフリースクールを併設するなどという、今までにないような形態を視野に入れながら、運営形態をどうするのか考えなければなりません。

市が直営で行うというのは、ハードルが高いです。民間の企業がこの分野について研究されているので、その結果を参考にしながら検討したいと考えております。

**高橋委員** 子ども食堂と絡めた取組としてできないでしょうかね。

**上林委員** これまで保育所や子育ての課題について議論されてきましたが、学齢までのフォローが大変重要です。市の中でも担当部署が多岐にわたるので、相談したいことがあってもたらい回しになることもあります。一元化した組織が必要であると考えており、市の組織改革の中でも検討を始めているところです。

周産期医療の話もありましたが、札幌医科大学に医師の派遣を依頼している中、協会病院の設備整備が必要といわれていますので、具体的な支援策を考え進めているところです。

生まれてから学童になるまでの間、身近に親族がいないため相談できない状態になります。それを解消するためにも、関係する部署が連携して検討をしております。再来年くらいには具体的な提案ができるのではないかと考えています。

**鈴木座長** 今年の4月に障害者差別解消法が施行され、障害を理由に差別してはいけないということが法で定められました。これは教育の世界にも当てはまります。発達障がいなどを理由に教育を受けられないということは法律違反になります。小樽商科大学でも特別就学支援室を設置して対応しております。国を挙げて、ハンデのある人には手厚くしていくという流れで、この流れは小中等教育でも当てはまるのではないのでしょうか。

周産期医療については少し目途がきつ々あるということですね。

**高橋委員** 子育て支援の話がでましたが、ワンストップで対応して欲しいと思います。移住もワンストップで行っているのですから。役所特有のたらい回しはやめましょう。

全てを1カ所で対応できなくても、担当するところまで案内するだけでもよいので、思いやりを持って窓口対応をして欲しいです。

**上林委員** 小樽市に公立幼稚園がないことから、幼稚園との連携というのが一番ハードルになっています。私立の幼稚園では子どもの取り扱いになっていますが、認定こども園もできて変わってきていますので、行政の対応がなかなか追いついていかない状況ではあるものの、学齢までの子どもを一元的にサポートできる体制を検討しています。

**鈴木座長** <議事(2)について、他に質問や意見を求めたが特にないため、次に進める>  
<議事(3)総合戦略の一部改訂案について、事務局から説明を求める>

**事務局** <資料3に基づき説明>

**鈴木座長** <事務局からの説明に対し、意見や質問を求める>

**鈴木座長** これは資料1を盛り込んだものになりますね。

**事務局** 仮に、資料1で提案した施策を掲載した場合に、想定される変更を反映したものです。

- 鈴木座長 資料2のものが盛り込まれることはありますか。
- 事務局 資料2についてはまだ具体的に事業化の目途が立っていないため、引き続き庁内での検討を続けますが、具体的な取組として登載することは難しいかと思えます。
- 鈴木座長 では資料2についてはこの先どうなりますか。
- 事務局 参考資料として企業版ふるさと納税制度についての資料をお配りしておりますが、地方創生に寄与するような事業に対し、企業から寄附を受け入れることができますので、そちらを活用することができるのではないかと考えております。
- 皆川委員 地域の特性に配慮した地区別戦略の考えは総合計画と合致しているのでしょうか。次期計画の策定段階で見直しがあつて変更になった場合には、戦略も合わせて改訂するのでしょうか。
- 事務局 地区別は現総合計画と整合させております。地区別のフレームは変わらないものと考えて整理しておりますが、変更が生じた場合には相互の整合性をとりながら戦略を改訂していくこととなります。
- 高橋委員 重点戦略の1つが「育て上げるチカラ」の強化です。これに異議はないのですが、「命と教育を最優先課題とする」というくらい、強く打ち出したほうが良いのではないかと考えております。  
重点戦略の1番目に来るものですし、内容とも矛盾するものではないので、強めにコンセプトをアピールしていったほうが良いのではないかとと思えます。
- 鈴木座長 ここの表現をもう少し強めて欲しいという要望ですね。
- 事務局 検討させていただきます。
- 西山委員 地方創生の流れの中では広域連携、自治体間連携が推奨されていて交付金も付きやすい状況のようですが、戦略を策定して1年経ってPDCAサイクルを回してみても、広域的視点で新たに何かできてきましたか。実際に取り組むのは難しいところがあるとは思いますが。
- 事務局 観光については広域連携が重要であろうということで、皆様からもご意見をいただいております。事業部でも検討しているところでありますが、具体的にまだ頭出しできる状況ではありません。  
総合戦略の基本目標Ⅲにも広域的な連携の推進を掲げていますが、いざ、具体的に事業を組み立てて進めるとなると、まだ、近隣の市町村との役割分担の場面などで整理ができていない現状があり、課題として認識しております。基本目標Ⅲの理念の下、引き続き検討を進め具体化した際には戦略に盛り込んでまいりたいと考えております。
- 鈴木座長 <議事(3)について、他に質問や意見を求めたが特にないため、次に進める>  
<議事(4)意見交換として、今後の人口対策、地方創生において小樽市にとって特に重要と考えることについて、各委員から順に意見を求める>
- 新谷委員 子育てに関する相談窓口について、コンシェルジュのような窓口の設置を要望します。
- 山川委員 もう十分話しました。(これまでの議論で発言したので遠慮するとのこと。)

- 片岡委員** 市の委員会や協議会に参加する機会が多いですが、どうしても部署によっては縦割り社会であると感じています。組織改革に期待します。  
あと、広域連携の関係では、後志の中で小樽市がリーダーシップをとって引っ張って欲しいと思います。
- 杉本委員** できることを戦略に載せるということは大切だと考えますが、すぐに取り組めることは実行しながら検討を進められたらと思います。
- 海野委員** それぞれのセクションで思うところがあるでしょうから、腹を割って話して意見を出しあった方が、議論が速く進んでよいのではと感じています。
- 若狭委員** 人というのは働く場所があれば集まってくるものだと思いますので、働く場所を確保するというところに重点的に取り組むことが必要だと考えます。創業支援や事業継承支援、企業誘致を積極的に進めることが大切だと考えます。小樽に来て4年半が過ぎましたが、雪さえ我慢できれば、非常に住みやすいと感じています。災害も少ない地域ですし、本社が東京や大阪の企業に対してサテライトオフィスとしての提案をするのも良いと思います。
- 西山委員** 小樽市みらい創造プロジェクトチームの取組は、若手職員のモチベーションを高めるという意味でごくよいと思います。経費のかからないものについては、すぐにでも実施すると良いと思いますし、表彰制度を設けるのもどうでしょうか。若い人の考えを大切にすることはとても良いことだと感じました。  
小樽をマスコミを活用してPRすると良いと思います。全国の自治体の中で、知名度はダントツに高く、知らない人はほぼいないでしょう。マスコミなどを上手に利用して情報を発信し、ブランド力を維持するとよいと思います。
- 高橋委員** 命と教育を最優先課題にして欲しい。ただそれだけです。
- 佐林委員** 十分発言しましたので結構です。(これまでの議論で発言したので遠慮すること。)
- 宮原委員** 雇用の創出が大切であり、特に地場産業の振興は必要だと思います。ハローワークでの求人を見ますと福祉介護系が多く、人材不足も起きていますので、UIJターン受入による人口対策なども必要です。  
国では働き方改革が進められていますが、非正規雇用の方が多いので、正社員化・同一労働同一賃金を目指し、働きやすい環境を作ることに取り組んで生きたいと考えております。
- 皆川委員** 小樽は観光と言われていますが、人口を増やすとなると働く場が大切になってくると思います。雇用の創出のためには、行政だけでも民間だけでもダメですので、協力し合って取り組んでいただければと思っています。
- 鈴木座長** 今日の皆さんの意見を伺い、また、小樽市みらい創造プロジェクトチームの概要を見まして、小樽市民・市役所の中でも意欲的に議論が行われていると感じました。  
国立大学は教育、研究のほかに地域貢献が大きな柱に掲げられています。小樽商科大学も地域の核となる大学を目指すミッションがあり、地域に関わることは使命であります。  
小樽市は国勢調査の結果を見ますと、5年間で1万4人減少しました。年間2千1人と全国でも速いペースで減っています。何とかして、このペースを遅らせなければならぬと考えております。

しかしながら、現在、小樽市役所が十全に機能を発揮していない状況にあるというのが非常に残念であります。我々からは、一刻も早く、従来の機能に復帰していただきたいと強く願う次第であります。

最後に副市長の上林委員からお願いします。

**上林委員**

短い時間ではありましたが、多くの参考になるご意見をありがとうございました。総じて言えば、人口減対策の根幹に関わる産業育成、働く場の創出、にぎわいづくりということで、観光を単に人を呼び込むだけのものではなく、産業としての発展する必要があると考えます。観光をただのものではなく、物語性のある観光につなげ、世界に発信していくということを考えますと、日本遺産登録に向けて本腰を入れて取り組まなければならないと思っております。

また、子育てについては将来の地域を支える人材でありますので、社会で育てるという視点を持って、「まちづくりは人づくり」につきると思いますが、一つひとつの施策を丁寧に進めていかなければならないと感じております。

地域連携の話も出ましたが、周産期医療の部分でも北後志で連携しております。また、新幹線でニセコや倶知安との時間的距離が近くなるため、観光のあり方も変わってくるでしょうし、クルーズ船の滞在時間を長くするため、乗客をいかに周遊させるかということも内部で検討しております。小樽が札幌と対立する小樽ではなく、札幌との関係性の中で小樽が発展していくという視点で考えております。

今日いただいた意見を参考にしながら、小樽の発展のために努力してまいりますので、皆様のご協力を引き続きお願いいたしまして、お礼の挨拶とさせていただきます。

**鈴木座長**

最後に、その他として次回の日程についてです。1月下旬を目途に書面にて開催したいと思います。後日、事務局から連絡がありますのでよろしく申し上げます。

本日お配りしました資料につきましては、お持ち帰りいただきまして、改めてご意見等がありましたら、遠慮なく事務局にお寄せいただければと思います。

以上を持ちまして平成28年度第2回小樽市人口対策会議を終了いたします。本日は長時間にわたり大変お疲れ様でした。